

琉球大学学術リポジトリ

[記事](研究発表会要旨)メキシコにおける技術協力について：メキシコ家畜衛生センタープロジェクト

メタデータ	言語: 出版者: 南方資源利用技術研究会 公開日: 2014-10-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 島袋, 哲 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002017229

④ メキシコにおける技術協力について

——メキシコ家畜衛生センタープロジェクト——

沖縄県家畜衛生試験場 島袋 哲

1983年6月より1986年5月まで約3年間国際協力事業団(JICA)の派遣専門家としてメキシコ家畜衛生センタープロジェクトに参加したのでその概要を報告する。

本プロジェクトは日本で研究開発された豚コレラ生ウイルス予防液(GPE)の製造並びに検定技術を指導し技術移転すると共に関連する家畜ウイルス病の診断技術の指導を目的とした。1981年6月より5年間の計画で開始され今年5月31日に終了した。

メキシコは日本の約5倍の国土面積を有し、東西を太平洋とメキシコ湾並びにカリブ海に面し、北はUSAと、南はガテマラ、ベリスと国境を接している。人口は約8,000万人で、その5分の1の1,700万人は首都のメキシコ市に集中している。

家畜の飼育頭数も日本と比較して遙かに多く牛(乳用・肉用合わせ)3,200万頭、豚が1,500万頭、鶏(卵用・ブロイラー)14,000万羽、山羊915万頭、羊480万頭、馬800万頭を有する大きな畜産国である。

豚のウイルス性疾病の中で最も重要視されているのは豚コレラとオーエスキー病であり、さらに中南米で発生が見られるアフリカ豚コレラである。豚コレラ予防液の製造技術の移転は家畜衛生センターでのMaster Seed Virusの製造、試験ロットの製造と野外試験、予防液の検定技術の確立、国立動物用生物学的製剤製造所での予防液の大量製造という順序で進められた。

つぎに私が担当した診断分野では豚・牛・馬・鶏各家畜の重要疾病について診断技術、即ち各種血清反応・診断液の製造・ウイルス分離と同定などを指導することであった。

5年間の派遣専門家は長期(9ヶ月以上)13名、短期20名であった。供与した機材は電子顕微鏡・凍結乾燥機など4億2,600万円に及んだ。またプロジェクト期間中にカウンターパート21名を研修のため日本に派遣した。しかし、カウンターパートの定着率は低く、その点はこのプロジェクトのネックの一つであった。